

いま、社会が君たちの力を必要としています！



法学部長
かない 貴嗣

今、日本の社会は、大きな変革期

にあります。戦後形成された政治・経済等、さまざまな制度が「制度疲労」を起こして、改革が求められているのです。制度を担うと同時に、制度の見直しに携わる人材の養成についても改革が進められています。

2004年に開校された法科大学院も、その一つです。市民の目線にたつて法律事務に携わる検察官や弁護士、国際化や情報化が進展する中で、国際取引に係わる論争に対処できる弁護士、研究開発・技術革新にも詳しい裁判官や弁護士が、必要とされています。公務員等、他の職業についても、事情は同じです。少子高齢化に伴って社会保険制度や高等教育制度の見直しが進められています。しかし、年金問題ひちつとつても、解決策が明確になっていません。企業も、国際化や技術革新の進展に対応できる「組織の再構成（リストラクチャ

リング）」を迫られています。国際社会に目を転じてみると、さまざまな変化が生じています。テロ・紛争の頻発、地球温暖化による異常気象、食糧危機、等々。

日本の社会が、また国際社会がどのような仕組みになっていて、今、どのような方向に変わろうとしているか。君たちは、どのくらい、わかっていますか。

本を読み、人の意見を聞いて、自分の考えをまとめ、それをわかりやすく主張することが出来ますか。外国語でコミュニケーションすることが出来ますか。

おそらく、今、そのような知識や能力はないでしょう。なくてもいいのです。大切なことは、是非、大学で、そのような能力を身につけてほしいのです。

4年間は、「あっ！」という間に過ぎてしまいます。大学生活を有意義に過ごしたかどうか、その後の人生に大きく影響します。勉強することとは、社会を良くするためであると同時に、君たち自身のためです。

学びの再構築



経済学部長
まつまる かずお

経済学部へのご入学おめでとうございませう。経済学部は、昨年創立百周年を迎え、今年には経済学部一〇一年目の年に当たります。第二世紀目の歴史とともに歩んでもらえる新入生のみなさんを心から歓迎いたします。

今日、新たに大学生として生活を開始されるみなさんに考えていただきたいことが二つあります。一つは、自分は大学で何を身につけたいのか。二つめは、大学を卒業したら自分はどうな人生を送りたいのかということです。

大学に入学するということは、皆さんご自身はもとより、ご父母やご親族にとっても大きな喜びでしょう。しかし、これから過ごす四年間の大学生活で、何も身につけるものがないか、かつたら大学で学ぶことに何の意味がありますか。

ここにちまで、みなさんは勉強す

るということについてどんな考え方をもちてきましたか。やれといわれるから勉強する、勉強とは忍耐力の涵養だ、将来の可能性を開く上で必要だ、勉強をおもしろいと思ったことはない等々、百人百様でしょう。それはそれで結構なことだと思います。しかし、大学で勉強することのこの本質的な意味は、「みずから課題を発見し、その解を求める」ことにあるのではないのでしょうか。これまでの勉強に対する姿勢、勉強の方法を一度根本から見直し、大学での学修について深く考えてみましょう。問題に対する正解らしいものをどこからか探してきて、コピー&ペースト（引き写し）することはいただけません。

人の一生は、学びの連続です。「」のための勉強から「よりよく生きるため」という発想で、大学生にふさわしい学びの再構築にチャレンジしてください。

学生、このかけがえのない時代



商学部長
酒井正三郎

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。これから始まる大学生生活にむけて、みなさんの胸は期待感と心地よい緊張感に包まれていることと思います。

社会に出る前の最後の学府である大学の四年間は、みなさんのその後の人生にとって大変大きな意味を持っています。四年間を人生のキャリア・デザインの時期と位置づけ、資格試験に邁進する人、また将来の起業家を目ざしその分野の勉学と準備に打ち込む人など、その送り方はさまざまでありえます。

こうした中で近年、「学生なんだからしょうがない」という意識から脱却し、大人と同じ土俵で評価されたいと、学生という枠を越えてビジネス活動やNGO、国際ボランティアなどの分野で活躍する諸君が目立ってきています。まさに「脱・学生」の、その心意気やよし、という

ところです。

そのことを評価しつつも、同時に学生という、人生の中で本当にかけがえのないこの「ひと時」に想いを致し、この時代にしかなしえないことにチャレンジする努力も忘れないでほしい、と思います。大学に入るための受験競争、大学卒業後にひかえるビジネス界での競争、この二つの「競争」のはざ間にあって、大学の四年間は人生でほとんど唯一の競争とは無縁の（少なくともそうであることが可能な）貴重な時代です。責任感や倫理観、論理的思考力や判断力、かかる人間形成にとって重要な広く豊かな教養の獲得は、読書や思索に思う存分時間を費やせる「学生時代」にこそよくなし得るものです。一人ひとりのみなさんが、この中央大学において、悔いの残らない豊かな学生生活を送られるよう期待してやみません。

「勉強はつらいが研究は楽しい」



理工学部長
田口 東

大学生になると、講義の取り方だけを見ても、自分で決めなければならぬことが沢山あるのに気付きます。学生生活の自由度が大きく、自分自身の責任で物事を決めるチャンスが多くなるのです。一生の間にこのような時期は滅多にありませんから、悔いを残すことのないよう是非有意義に過ごしてください。

私たちは、在学期間中に、皆さんが何らかの形で科学技術の第一線に参加できる力を身につけることを期待しています。それははるか彼方に輝いているように思うかもしれませんが、実はすぐ近くにあつて、熱く手にすることができます。基礎から応用へと続く理工学部のカリキュラムを学ぶことにより、内容を理解できるようになり、私たち教員や大学院生の指導を受けながら、研究に取り組みこととなります。卒業研究

では、試行錯誤をしながらも、かなりの部分を自分の力で研究を進めるチャンスが得られるのです。単に学ぶだけでなく、研究を通じて「知」を創造する訓練を積み、成果を得る喜びを味わうことにより、将来未知の課題に出会ったとき、それを解決する能力を身につけることができます。

上の事に加えて、私が皆さんに望むのは、自然にしても社会にしても、その中の仕組みに対して、素直に興味を持つこと、自分なりの答えを見出すまでの持続力を身につけること、そして答えに自信を持つことです。そのために、ゆつくり本を読む時間を作ること、良い友人を作るなどの二つを勧めます。そのようにして成長しつつある先輩諸君の日々の活躍を理工学部のwebサイトで見てください。そして、皆さんも是非その仲間入りをしてください。

万卷の書は蔵にあり



文学部長
宇野 茂彦
うの しげひこ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

この中央大学の多摩キャンパスは自然に恵まれたなかなか気分がいい場所だと思います。校舎の向うには形のいい小山があるのがすぐ目に入るでしょう。山頂にお稲荷さんが祀られていて、近所の方々の崇敬を集めている山でもあります。麓には桜の林があり花を咲かせて皆さんを迎えているはず。グラウンドに立つてみれば周囲は小山の緑に囲まれて、とても清々しい気分になります。この秀麗の地でいわゆる浩然之气を養って学園生活を過ごして頂きたいと思えます。

孟子はこの浩然之气が外界から入ってくるのではなく、精神の正しさを積み上げることで生れると言っています。皆さんにとつてこの気を養う最良の方法とは何か、それは書

物を沢山読むことだろうと思います。今までも本は読んで来られたでしょう。しかし、人生のなかで大学時代ほど余裕のある時は無いのですから、このときこそ落ち着いて本を読んで頂きたい。その書物は思想や文学、或いは歴史に関わる重厚なものが望まれます。重厚な書は社会に出てからは余程努力しないと読めないからです。そして書を読むことの意味の大きさに気づいて頂きたい。

或る碩学の先生曰く「書を読むことは人を読むこと、いな、すべてを読むことだ」と。本当にそうだと思います。そして、書によって言葉を知ることが思索することに他なりません。話し言葉、書き言葉といいますが、言葉はなにより考える言葉なのです。皆さんがそこに気づいて読書を重ねられんことを期待します。

スキルの三要素



総合政策学部長
大橋 正和
おおはし まさかず

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。希望に胸をふくらませて大学生活をスタートさせた気持ちで大学生活を送りたい。人生のもっとも可能性に満ち将来にむけてスタートする貴重な時間を過ごすための準備はできたでしょうか。

高校までの教育と、大学からの教育との違いは何かというと、高校までの教育を表す英語は、*“Education”* であり、大学から始まる生涯教育のことを *“Learnings”* と言います。Learningsには、Educationばかりでなく自律的に勉強するという意味も含まれます。決められた課程を学習するばかりでなく、自分でこれを学ぼうという積極的な姿勢と、そのためには何をしたらよいかという方法論を考え、新しい知見を得るために知識を創造する方法を習得することが求められます。すなわち、自分の将来を考え(キャ

リア・デザイン)、自己のオリジナリティの確立(アイデンティティ)と、新たな知見を創造できる能力(創発・エマーゼンス)を身につけるために次の3つのスキルを目標としてほしいと考えています。

スキル(リテラシー)の3要素の獲得

1. 専門知識の体系的・構造的構築
2. 知識を創造する能力(受容・発信能力の向上による)
3. 学習や活動に対するAttitude(姿勢)の向上

今まで生きてきた人生と大学生活での年限を足しても20数年です。大学を卒業してから社会で活躍するのは、40年以上の年限です。すなわち今まで生きた人生の2倍以上の時間を過ごすための準備を大学生活の4年間でするためにも充実した大学生活を過ごすことを希望します。社会に出るときに身につけるべきスキルとしてこれら三要素を目標とすることを考えてください。